

膝の傷害・・・鍼灸師として気をつけること

東京有明医療大学

柚木 脩

WHO は 2001 年 2 月「伝統医療と相補・代替医療に関する報告」を発信し、それぞれに対して 21 世紀の人類の健康に貢献する事、及びその具体的臨床データを求めた。WHO に対して、鍼灸分野からは沢山のデータが提出されたと聞いている。

更に同年 5 月には、1980 年作成の「国際障害分類」を改定し、新たに「国際生活機能分類」を発信した。人類への医学的対応を「障害から機能」へと、即ち、「マイナスからプラスのイメージ」へと変換し、西洋医学のみならず鍼灸医学等へも呼びかけ、医療への取り組みの変革を促して来たという歴史的事実がある。

医療とは、医術を用いて病気を治療する事、医療人のプロとは、医術を用いて患者さんの要求に応え、その結果として社会に貢献する事と定義されている。医療を用いて患者さんの要求に応え、癒し、機能を上げ、そして社会の一員として復帰させて初めて社会貢献した事になる。

そのためには、単に局所的な膝関節を扱う場合でも、骨・筋肉・神経・靱帯・滑膜と全身臓器そして生活機能を俯瞰的に捉える必要がある。これこそ鍼灸分野の得意とする医療であると考えられる。特に小児では素早い対応、50 歳以上では、持病の把握と生活への配慮が必要である。

今回のテーマである膝周辺の痛みを訴える疾患を、年代やカテゴリー別に以下の如く分類し解説する。

1. 小児の跛行を伴う急性片側膝痛
2. 小児の跛行を伴う間歇的片側膝痛
3. 高齢者の急性膝痛
4. 高齢者の慢性膝痛
5. 青壮年の急性膝痛
6. スポーツ選手の外傷
7. スポーツ選手の障害
8. その他

診察でポイントになる事を以下に示す。

1. 運動痛だけか、安静時痛はあるか
2. 小児では、起床時に元気だったか、食欲はあるか
3. 小児では、全身発熱は、局所の炎症の 4 主徴はあるか
4. スポーツの怪我では、直後の状態と現状までの経過はどうか
5. 高齢者では、持病と服薬の把握

治療でポイントになる事を以下に示す。

1. 安静にさせる事の意味
2. 運動をさせる事の意味
3. 筋強化させる事の意味

以上を念頭に入れ医療を行う事は、すべての医療職に共通するものである。今回は、具体的症例を提示して、個々に検討を加えたい。